

耐震診断結果の見方

該当する「耐震診断の方法の名称」と同じものを附表の中から探します。
 「構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価の結果」に記載された数値が附表のどの欄に当てはまるかを確認します。
 当てはまる欄の上部に安全性に対する区分とその区分の説明が記載されています。
 建築物によっては、安全性の評価に必要な補足説明が記載されている場合がありますのでご確認ください。

建築物の用途ごとにまとめて公表します。

小学校、中学校

NO	建築物の名称	建築物の位置	建築物の主たる用途	耐震診断の方法の名称	構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価の結果			耐震改修等の予定		備考
					Is/Iso	CT・SD	0.35	内容	実施時期	
1	小学校南棟校舎	一丁目 番地	17号 幼稚園、小学校等又は幼保連携型認定こども園	5-2 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(1990年版)	Is/Iso	1.25	CT・SD	0.35		Iso=0.72として診断
2	小学校校舎棟校舎	一丁目 番地	17号 幼稚園、小学校等又は幼保連携型認定こども園	5-3 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	Is/Iso	0.45	CTU・SD	0.30	耐震改修	平成29年10月着手 平成30年3月完了 Z・G・U=1として診断

附表 耐震診断の評価の結果と構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価

耐震診断の方法の名称	構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性		
	大規模の地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が高い	大規模の地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性がある	大規模の地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が低い
5-1 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」及び「第3次診断法」(1977年版)	$I_s/I_{s0} < 0.5$	左右以外の場合	1.0 I_s/I_{s0}
5-2 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」及び「第3次診断法」(1990年版)	$I_s/I_{s0} < 0.5$ 又は $C_T \cdot S_D < 0.15$	左右以外の場合	1.0 I_s/I_{s0} かつ0.3 $C_T \cdot S_D$ 1.25 < $C_T \cdot S_D$
5-3 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」及び「第3次診断法」(2001年版)	$I_s/I_{s0} < 0.5$ 又は $C_{TU} \cdot S_D < 0.15 \cdot Z \cdot G \cdot U$	左右以外の場合	1.0 I_s/I_{s0} かつ $0.3 \cdot Z \cdot G \cdot U$ $C_{TU} \cdot S_D$
5-4 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」及び「第3次診断法」(1983年版)	$I_s/I_{s0} < 0.5$	左右以外の場合	1.0 I_s/I_{s0}

耐震改修などの今後の予定が記載されています。既に耐震改修済である場合など、予定のない場合は空欄となります。

耐震診断の際に使用した数値など安全性の評価の判断に必要な補足事項が記載されます。

用語の説明
 Iso: Is値の判断基準となる目標値(一般的には0.6)
 Z・G・U: 地域、地盤、建築物の重要度に応じ、目標値を補正する値(一般的には1.0)